

社内インストラクター養成講座

 シンメトリー・ジャパン株式会社





はじめに～インストラクターという「特殊」な技術



「社員を講師にして、研修を内製化できないでしょうか？」

そんな相談を受ける機会が多くなっています。

コストの削減や企業文化を継承するため、そして、教える側に立つ社員の成長のために研修の内製化は「アリ」と言えます。

ただ、実際のところは、インストラクターとして教えるというのは単なるプレゼンテーションとは違う特殊な技術が必要です。実際、「講師なんて、ある程度

優秀なヤツならば務まるだろう」と安易に考えて失敗した経験がある方も多いのでは？

これを乗り越えるために私たちが開発したのが、「優秀な講師に共通する行動は何か？」を集約した「標準ビジネスファシリテーターモデル」。約200項目ある項目が、御社の社員はインストラクターとして「何ができて」、「どこが足りないのか」を明らかにします。

担当者から事例の紹介もさせていただきますので、ご興味がある方はぜひご連絡下さい。

シンメトリー・ジャパン代表

木田知廣

<http://corporate ofsji.org>



講座の概要

対象

研修やセミナーなどで、社内外を問わず講師として高い満足度と学習効果を達成したい人

顧客向け説明会、ビジネスパートナーへの自社製品紹介、社内勉強会など、多くの人前で話して自分の伝えたいポイントを理解してもらい、共感を得たい人

内容

講師的な役割を高い成果で果たすために必要なスキルを、グループやペアによるワークショップと相互フィードバックによって体得する

受講後の姿

講師に必要なスキルの全体像を体系だって理解している

自身に必要な講師としてのスキルを身につけ、実践する準備ができている

LeADER原則(聞き手に期待した行動をとってもらう)に則り、聞き手の気持ちをつかみ、行動を促すことができる



講師に必要なスキルの全体像

v4.3

「脳内マップ」の構築

セグメンティング

ペアリング

ソーティング

グレーディング

クリアリング

場作り

アイスブレイク

限定された民主制

ボスザル効果とITEM法

グループワーク設計

参加者の活性化

水掛相づち法

聞き手のコントロール

対話型セッションのQP法

対話型セッションのAD法

対話のボケとツッコミの法則

フィードバックの同心円モデル

質疑応答のARSA法

議論収束の小中学校モデル

分かりやすい説明

PFD三層構造

PARLの法則

ファシリテーション

たとえ話の三原則

アナロジー・マトリックス

説明の順序の三原則

プレゼンテーション

緊張防止の方法論

オードリーの「通る声」

第七頸椎法

メリハリの四原則

アイコントロールとT3

プレゼンスのギャップモデル

聞き手の理解

ピラミッドモデル

ソーシャル・スタイル

学習スタイル

モチベーション・マトリックス



講師に求められる行動 (一部)

場作り

セッションの目的にあわせた参加態度をとるように参加者のマインドをセットする

分かりやすい説明

参加者が新たな知識・スキルを獲得できるよう、モノゴトを分かりやすく説明する

グループワーク設計

課題の設定、議論の進め方、発表のしかた、フィードバックの方法など、グループワークを効果的に設計できる

気づきの形成

参加者のその後の行動変容につながる、マインド面での変化を与えることが出来る

参加者のコントロール

学びとコミュニケーションのスタイルは個々人ごとに違うことを理解したうえで、様々な方法の学びのスタイルを提供している

質問のハンドリング

質問に答えることで参加者全体の理解度を上げている



カリキュラム

下記に典型的なカリキュラムを示します。最短2時間から最長3日までカスタマイズ可能です

時間	活動の概要	学習ポイント
午前	概論：講師活動の全体像と、変わりゆくその役割	<ul style="list-style-type: none"> ● まずは概論として、講師活動の全体像を理解する。講師の役割が、単に「人前で話す」ことだけではないことを体感するため、簡単な演習を交える
	「場作り」の技術と講師の基本的な立ち居振る舞い	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者が適切な緊張感をもって話を聞く雰囲気醸成する「場作り」の技術と、講師の基本的な立ち居振る舞いをワークショップによって身につける
午後	聞き手を惹きつけるストーリーテリングの力	<ul style="list-style-type: none"> ● 聞き手の興味をひき付けるため、ストーリー仕立てで大事なポイントを話す方法論を身につける
	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> ● 本日学んだことを使って、実際にミニ講義を行い、スキルの定着化を図る
	学習内容の振り返りと活用法の確認	<ul style="list-style-type: none"> ● 単に「研修を聞いて終わり」ではなく、自身にとっての学びのポイントを明確にする



オプション:電子書籍や動画で継続的な学びを

「研修で学んだことをできるようになる」ためのフォローアップとして、メールセミナーや電子書籍、動画セミナーを刊行中です

研修に加えて、このオプションサービスをご利用いただくと、継続的に講師としてのスキルアップができます

【タイトルの例】

- ・「分かった！」と言わせる法則があった！～気づきの脳内マップモデル
- ・一方通行の「レクチャー」はもはや時代遅れ～対話型セッションのQP法
- ・複雑なコンセプトを一瞬で伝える～たとえ話の三原則
- ・言葉を尽くした説明でも伝わらないと感じたら～説明の順序の三原則
- ・どんな場面でも堂々と話せる～緊張防止の方法論
- ・まとまりがない話し方にサヨウナラ～議論収束の「小学校モデル」



連絡先

シンメトリー・ジャパン株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-5-5 本田ビル2F

電話: 03-6686-1808

Fax: 03-6699-8089

e-mail: call.kenshu [at] ofsji.org

<http://corporate.ofsji.org/>